高知学園大学・高知学園短期大学紀要　第56号（2026）：119-125

報告論文

本学幼児保育学科の入試の変遷と学生の音楽表現力について

中山　直之[1]*

要約：令和３年度の着任以降，本学幼児保育学科の入試内容は，社会情勢や教育方針の変化に応じて見直しが重ねられてきた。とりわけ，音楽表現に関する実技試験の内容や方法は，学生の多様な音楽経験を尊重しつつ，保育者として求められる音楽的基礎力を評価できる形へと改訂されてきた。令和４年度からは，ピアノや歌唱に加え，管弦打楽器など多様な表現方法を認める自由選択制を導入したが，令和６年度からは全国的な動向を踏まえ，実技試験に代わって入学後の指導体制をより重視する方針へと転換している。本稿では，こうした入試内容の変遷を整理し，学生の音楽的背景や学習傾向を分析するとともに，授業における教材研究や実践的な指導改善の取り組みを報告する。さらに，今後の音楽表現教育の在り方と，保育者養成における音楽教育の意義について考察する。

キーワード：入試，音楽表現，ピアノ，歌唱，弾き歌い

はじめに

本学幼児保育学科における音楽表現教育は，高知県内にとどまらず，中・四国地域の音楽教育や芸術文化の発展に寄与された多くの先生方によって，その理念と実践が脈々と受け継がれてきた。かつては，音楽を専門とする常勤教員が２名配置され，ピアノや歌唱の実技指導を担当する非常勤講師も現在より多く在籍しており，教育体制は大変充実していたと聞いている。

当時の学生の音楽的資質も総じて高く，「バイエルはすでに修了していて当然」と言われ，ソナタ以上の曲を演奏できる学生も少なくなかったという。研究室には「コールユーブンゲン」や「コンコーネ」などの教材が学生人数分整えられており，こうした教材環境が学生の高い実技力を支えていたことがうかがえる。

令和２年度末の最終日に前任者から業務の引継ぎを受け，その直後に行われた２年生の補講および入学式の合唱指導を担当した際，初めて本学学生の音楽的実力の実態を把握することとなった。入試段階で一定の音楽的基礎力を備えているものと想定していたが，実際には必ずしもそうではなかった。この経験を契機に，教材研究や授業内容の改善に向けた検討を本格的に進めることとなった。

本稿では，以上の経緯を踏まえ，本学幼児保育学科における入試内容の変遷と，学生の音楽表現力向上を目指した授業改善の取り組みについて報告する。

１．入試内容の変遷

（１）令和３年度までの入試

令和３年度入試（学校推薦型選抜〈公募制〉および一般選抜）までは，以下のような音楽実技試

[1] 高知学園短期大学　幼児保育学科　*Email: nnakayama@kochi-gu.ac.jp

験を実施していた。

①ピアノ実技
　バイエル教本60番から106番の中から任意の１曲を選び，楽譜を見て演奏する。
②歌唱実技
　簡単な音程による歌唱を行う。コールユーブンゲン原書No.29程度の内容を学習しておくことが望ましい。

（学生募集要項より抜粋）

この段階では，ピアノおよび歌唱の基本的技能を確認することを目的としており，保育現場で求められる音楽の基礎力を評価の対象としていた。

（2）令和４年度入試の改変

令和４年度入試からは，より幅広い音楽経験をもつ受験生が自分の得意な表現方法で受験できるよう，実技内容を以下のように改訂した。

演奏実技（４分以内）
　次のいずれかの方法で任意の１曲を演奏する。
　ピアノ，歌唱（無伴奏またはピアノ・ギターによる弾き歌い），管弦打楽器（打楽器はスネアドラムまたはマリンバに限る）。
　暗譜は不要であり，曲のジャンルも問わない。出願時に演奏曲と実技内容（歌唱または器楽）を申告する。

（学生募集要項より抜粋）

この改変は，一般社団法人全国保育士養成協議会が実施する「保育士試験」の〈音楽に関する技術〉を参考にしたものである。

同試験では，幼児に歌って聴かせることを想定し，２つの課題曲を弾き歌いする形式がとられている。求められる力は，保育士として必要な歌唱力・伴奏力・リズム感など，総合的な音楽表現力である。

（3）令和６年度以降の変更

令和６年度入試からは，全国の保育者養成校の動向を踏まえ，音楽実技試験を取り止めた。

しかし，実技試験の有無にかかわらず，保育者に求められる音楽表現力の重要性は変わらない。「ピアノは弾けなくてもよい」と言われることがあっても，「弾かなくてよい」「歌えなくてよい」ということではない。

音楽は保育における基礎的な表現手段の一つであり，教育実践においても不可欠な要素である。

２．入試実施時期の特徴と学生の傾向

実技試験を実施していた時期には，オープンキャンパス終了後に個別相談を希望する高校生や，高校の音楽教員からの問い合わせが多く寄せられ，希望する受験生に対しては複数回の個別指導を実施した例もあった。

また，令和４年度からの２年間に実施した自由選択制の入試では，ピアノ，歌唱，管楽器など，受験生による表現の多様化が見られた。これにより，音楽表現の楽しさや創造性が入試の段階から感じ取られるようになり，入学後も，それぞれの得意分野を生かした音楽活動へとつながった。

３．入学前教育と音楽オリエンテーション

令和６年度以降，実技試験が課せられなくなった現在は，オープンキャンパスで音楽表現の重要性を紹介するとともに，入学前に「音楽オリエンテーション（ピアノ初心者向け）」を実施している。これは，音楽実技科目への円滑な導入を目的としたものである。保育に必要な音楽の基礎を楽しく学び，ピアノを弾きながら歌う「弾き歌い」ができるようになることを目指している。これから音楽に触れる高校生も，すでに相当の音楽経験を持つ生徒も，それぞれのペースで学び，努力の積み重ねを通して表現力を高めることを大切にしている。

４．学生の音楽経験と入学までのサポート

高等学校において音楽が芸術科の選択科目であることから，入学時の音楽経験には個人差が大きい。義務教育課程で音楽を学んでいても，楽譜が読めない，鍵盤楽器の経験がない学生も少なくな

いのが現状である。そのため，本学ではオープンキャンパスや入学前オリエンテーションを通じて，「音楽が好き」という気持ちを出発点とし，音楽の基礎を楽しく身につけられるよう支援している。

参加者には「まず自分の好きな曲を歌ったり演奏したりしてみること」を促し，音楽の基礎を体感的に学ぶ姿勢を重視している。音楽実技に関する質問や相談は担当教員宛にメールで随時受け付け，継続的なサポート体制を整えている。

５．新しい教材の研究と開発

本年度のオープンキャンパスでは，「身近な素材で音遊び」と題し，言葉遊びやリズム遊びを取り入れた活動を行った。できるだけ音楽の専門用語を用いず，音楽活動そのものを素直に楽しむことに重点を置いている。

下記に示す譜例１．「ごあいさつ『朝の挨拶』」は，言葉遊びからリズム遊び，さらにアンサンブルへと発展させることのできる教材として筆者が創作した教材である。



譜例１．ごあいさつ『朝の挨拶』

令和７年８月のオープンキャンパスで実施した「言葉とリズム遊び」では，高知県の方言である「土佐弁」がもつ音のエネルギーが重要な役割を果たしている。子どもたちが園や小学校低学年で交わす「おはようございます」という一斉のあいさつは，土佐弁では一本調子で抑揚がほとんどなく（Perc.4），標準語ではPerc.3のように明確なアクセントが見られる。

これらの違いをもとに，両者を順に重ねながら展開する言葉遊び・リズム遊びとして構成した。演奏を想定し，各パートに分けてアンサンブルとして楽しめるように工夫している。参加した生徒やサポートを行った学生の反応も良好であり，今後は授業実践にも取り入れていく予定である。

また，実際には使用しなかったが，午後のグループ向けに創作した「ごあいさつ『昼の挨拶』」も併せて下記，譜例２として掲載する。なお，『昼の挨拶』は応用編として，土佐弁のアクセントを強調した三拍子バージョンも創作した。



譜例２．ごあいさつ『昼の挨拶』（４拍子）



譜例３．ごあいさつ『昼の挨拶』（３拍子）

６．音楽表現の授業での実践と展開

「音楽表現」の授業では，入学前に音楽経験が少ない学生も安心して学ぶことができるよう，これまでの流れを踏まえつつ，段階的に力を高めていけるように令和７年度より内容の改訂を行った。子どもの心を育む表現活動を展開するために必要な音楽の基礎的知識と技術を習得し，保育現場で活用できる歌唱およびピアノ演奏技術を身につけることを目的としており，その構成を表１に示す。２年間を通して，弾き歌いやピアノ伴奏ができる保育者の育成を目指している。

ピアノの基礎学習においては，演奏経験のない学生に対して，これまでと同様に「バイエル・ピアノ教則本」を使用して指導している。中には楽譜が全く読めない学生もおり，指導に苦労することも少なくないが，YouTubeなどの動画教材を活用して，楽譜の読み方や演奏法を自主的に学ぶことについては肯定的に捉えている。

推薦している伊藤康英編集『標準版ピアノ楽譜バイエル・ピアノ教則本 New Edition』は，ピアノ演奏技術のみならず，音楽の基礎的知識についても，学生が主体的に学びやすいよう配慮された構成となっている。

また，スリーコードを活用した伴奏法の指導を通して，「弾ける」という実感と自信を育むことを重視している。歌唱指導では，『幼児のための音楽教育』を教材として用い，季節や月ごとの歌唱教材を取り入れながら，保育現場に即した実践的な学習を展開している。

７．選曲の旅（自ら学ぶ探究心）

『音楽表現』における弾き歌い試験の選曲にあたっては，学生自身が主体的に曲を選ぶことを重視している。なかには与えられるのを待つ姿勢が見られる学生もいるが，まずは学びに真摯に向き合う姿勢を育むことが重要である。

授業では，知識を一方的に教え込むのではなく，学生一人ひとりの「学ぶ姿勢」を尊重している。

自ら発見したことは忘れにくく，自ら身につけたことはより確実に定着する。そのため，担当教員は学生が自発的に学び始めるまで，辛抱強く「待つ」ことを心がけている。

表１．子どもと音楽表現　授業内容

子どもと音楽表現 ＜歌唱とピアノ基礎＞	子どもの心を育む表現活動を展開するために必要な音楽の基礎的な知識と技術を習得することを目的とする。	保育現場で活用できる歌唱とピアノの演奏技術の習得を目指す。 授業は個人レッスン形式で、それぞれの学生のレベルに応じた指導を行う。
子どもと音楽表現 ＜子どもの歌と伴奏法＞	子どもの豊かな感性を育み、表現活動への意欲を引き出すために必要な歌唱力とピアノ伴奏技術を身につけることを目的とする。	子どもとともに歌う楽しさを共有しながら、保育現場での実践を想定した歌唱指導法や伴奏法を学ぶ。
子どもと音楽表現 ＜弾き歌いの実践＞	保育・教育現場で実践できる弾き歌いの技術を習得することを目的とする。	個人レッスンやグループレッスンを通じて、実践的な演奏力を高め、子どもと一緒に歌いながら演奏する技術を身につける。
子どもと音楽表現 ＜創作的音楽活動＞	保育・教育現場での実践を想定し、弾き歌いやピアノ伴奏法の応用・発展的技術を学ぶ。	保育現場で活用できる楽器の知識や合奏の指導法を身につけ、創作的な音楽活動の展開方法を学ぶ。

以下に，令和５年度入学生による弾き歌い（表２）およびピアノ独奏曲の選曲の変遷（表３）を示す。『音楽表現』における弾き歌い試験の選曲の多様化と難易度の向上が確認できる。

表２．弾き歌い試験の選曲から見る成長

１年前期	１年後期	２年前期	２年後期
あめふりくまのこ	明日は晴れる	うみ	あおいそらにえをかこう
おかあさん	あわてんぼうのサンタクロース	大きな古時計	あさごはんマーチ
おもちゃのチャチャチャ	犬のおまわりさん	おばけなんてないさ	明日は晴れる
かたつむり	思い出のアルバム	おばけのたまご	あひる
きのいいあひる	おもちゃのチャチャチャ	おべんとう	あめふりくまの子
こいのぼり	さよなら僕たちの保育園	思い出のアルバム	思い出のアルバム
さんぽ	サンタが街にやってくる	崖の上のポニョ	ありがとうの花
しゃぼんだま（シャボン玉）	さんぽ	かたつむり	大きな古時計
せんせいとおともだち	世界中の子どもたちが	くじらのとけい	おかえりのうた
たなばたさま	たき火	さよならのうた	おもちゃのチャチャチャ
チューリップ	小さな世界	さよなら僕たちの幼稚園	きくの花
ちょうちょう	手のひらを太陽に	しゃぼんだま	クラリネットを壊しちゃった
てをつなごう	ともだちになるために	世界中の子どもたちが	さようなら
手のひらを太陽に	ドレミの歌	たなばたさま	さよならのうた
てんとうむし	どんな色がすき	手のひらを太陽に	さよなら僕たちの保育園
とけいのうた	にじ	手をたたきましょ	さんぽ
とんぼのめがね	野に咲く花のように	とけいのうた	世界がひとつになるまで
にじ	まっかな秋	となりのトトロ	世界中のこどもたちが
ぴょんぴょんかえる	まつぼっくり	どんな色が好き	たいせつなともだち
ぶんぶんぶん	ミッキーマウスマーチ	にじ	ツバメ
めだかのがっこう	メリーさんのひつじ	ふしぎなポケット	手のひらを太陽に
やぎさんゆうびん	山の音楽家	ぼくのミックスジュース	となりのトトロ
山の音楽家	ゆき	むすんでひらいて	ドラえもんの歌
	雪の小坊主	もりのくまさん	とんぼのめがね
	思い出のアルバム	山の音楽家	にじ
	世界中の子どもたちが	Believe	にんげんっていいな
	明日は晴れる		はじめの一歩
	野に咲く花のように		ふしぎなポケット
	雪		もりのくまさん
	雪の小坊主		やぎさんゆうびん
	Believe		山の音楽家
			夢をかなえてドラえもん
			「ね」
			野に咲く花のように
			Believe
			Best Friend

表３．ピアノ実技試験の選曲から見る成長

１年前期	１年後期	２年前期	２年後期
Beyer	Beyer	Beyer	Beyer
Burgmüller	Burgmüller	Burgmüller	Burgmüller
Sonatine	Sonatine	Sonatine	Sonatine
List　La Campanella	Beethoven　月光	Bach　前奏曲第１番	Bach　G線上のアリア
Chopin　Nocturne	Schumann　アラベスク	Menuet	Beethoven　エリーゼのために
Mozart　C-Dur	Schubert　アヴェ・マリア	Beethoven　エリーゼのために	ソナタ第20番 第２楽章
		Chopin　ノクターン	悲愴 第２楽章
		List　12の練習曲より	Brahms　ラプソディ
		Merikanto　ワルツ・レント	Yiruma　River flows in you
		Schumann　狩猟	Pachelbel　カノン
			植松伸夫　ザナルカンドにて
			吉松隆　春：５月の夢の歌

8．おわりに

本学幼児保育学科の入試内容は，時代や教育環境の変化に応じて柔軟に見直されてきた。実技試験の形は変わっても，保育者に求められる音楽表現力の育成は今後も重要な課題である。音楽表現の楽しさとその教育的意義を実感できる学びの場をさらに充実させ，学生一人ひとりが「表現することの喜び」を体得できる教育のさらなる充実を図りたい。

倫理的配慮

本研究では，研究の目的と内容を説明した上で，同意が得られた学生のデータのみを使用した。

また，データが匿名性を保つことについても事前に説明を行った。

引用・参考文献

1）高知学園短期大学学生募集要項

2）全国保育士養成協議会『保育士試験実施要項』

3）伊藤康英編『標準版ピアノ楽譜 バイエル・ピアノ教則本 New Edition』

4）改訂幼稚園教諭・保育士養成課程『幼児のための音楽教育』

5）中山直之，グローバル化が求められている幼児教育と教員養成　*日本乳幼児教育・保育者養成学会第５回研究大会*．2024

受付日：令和７年11月５日

受理日：令和７年12月15日

Bulletin of Kochi Gakuen University / Kochi Gakuen College, No. 56（2026） pp. 119-125

Report

Changes in the Entrance Examination and Students' Musical Expression Skills in the Department of Early Childhood Education and Care

Naoyuki NAKAYAMA[1]*

Abstract: Since my appointment in 2021, the entrance examination for the Department of Early Childhood Care and Education has been revised to reflect changes in social conditions and educational policies. Particular attention has been given to performance examinations in musical expression, which have been redesigned to accommodate applicants' diverse musical backgrounds while assessing the foundational competencies required of childcare professionals. Although a free-choice system for musical expression was introduced in 2022, the policy shifted in 2024 to prioritize post-enrollment instructional support rather than pre-admission performance testing. This study outlines these changes, analyzes students' musical backgrounds and learning tendencies, and reports on efforts to enhance instructional practices. It also discusses future directions for musical expression education and its pedagogical significance in preparing early childhood educators.

Key Words: entrance examination, musical expression, piano performance, vocal performance, singing with self-accompaniment

[1] Kochi Gakuen College, Department of Early Childhood Education and Care, *Email: nnakayama@kochi-gu.ac.jp